

事業名	高等学校文化活動助成費			調査番号	94
細事業名	高等学校文化活動推進助成費補助金	財務コード	485101		
担当部課室	教育委員会	高校教育	課 指導	担当 (内線)	8339

I 事業の概要

実施期間	始期 S 58 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	補助(山梨県高等学校文化連盟)		
目的	だれ(何)を対象に	その対象をどのような状態にして	結果、何に結びつけるのか
	文化芸術活動を行う県内の高校生	文化芸術活動をおとして、生徒一人一人の感性を育て創造性や可能性を広げ、充実した学校生活や芸術文化に関わる活動が展開・推進できる	<ul style="list-style-type: none"> ・本県の文化芸術活動の発展・向上 ・伝統や文化を継承し、生涯にわたって芸術文化に親しむ人材の育成 ・文化の薫り豊かな地域づくりと新たな文化の創造
内容	<p>○趣旨:豊かな心を育て、文化の薫る地域づくりと新たな文化の創造・発展のため、県民の文化芸術活動の質の向上の機会を設けるとともに、その成果を発表・交流する機会を拡充するため、県高等学校文化連盟(以下、高文連)を支援する。</p> <p>○平成30年度事業内容: (1)第39回山梨県高等学校芸術文化祭グランドステージおよびパレードの開催 第39回山梨県高等学校芸術文化祭 各部門の育成および開催(全27部門) (2)第42回全国高等学校総合文化祭長野大会への派遣(25校の生徒401名)</p>		

II 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

区分	指標	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31(R1)年度	R2年度
活動指標	目標	27	27	27	27	27	27	27
	実績(見込)	27	27	27	27	27	27	
	達成率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	達成区分	b	b	b	b	b	b	
成果指標	目標	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.5%	81.0%
	実績(見込)	76.3%	78.6%	79.5%	80.4%	80.9%	81.0%	
	達成率	95.3	98.2	99.3	100.0	100.0	100.0	
	達成区分	b	b	b	b	b	b	
決算(予算)単位:千円		5,700	5,700	5,700	5,400	5,100	5,000	4,700

III 事業の評価(平成30年度の業績評価)

活動指標	b	評価	当初の計画どおり実施しており、予定どおりの活動量があった。
成果指標	b	評価	広報活動の工夫により、参加生徒数の割合が向上しており、意図した成果を上げつつある。(高校・特別支援学校高等部在籍生徒数に対する参加延べ人数の割合:26年度76.3%、27年度78.6%、28年度79.5%、29年度80.4%、30年度80.9%)

- ・「活動指標、成果指標の達成率」から事業の活動量、成果に係る一次評価の考え方を記載すること。
 ・指標がない場合や指標を補足する必要がある場合には、指標によらない成果を用いて記載すること。

IV 見直しの必要性(令和2年度に向けた改善等の考え方)

県関与の必要性	判定	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性が高い	<input type="checkbox"/> 必要性がある程度認められる	<input type="checkbox"/> 必要性が低い
	説明	<input checked="" type="checkbox"/> 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される <input type="checkbox"/> 事業の拡大や充実を求める意見・要望が増えている <input type="checkbox"/> 法令等により、県が実施することが義務づけられている <input type="checkbox"/> 県が実施しないと、県民生活に深刻な影響が生じる <input type="checkbox"/> 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で困難である。 <input type="checkbox"/> その他 ()		
有効性(成果向上)	判定	<input type="checkbox"/> 大幅な成果向上が可能	<input checked="" type="checkbox"/> 成果向上が可能	<input type="checkbox"/> 成果向上はあまり望めない
	説明	芸文祭第40回記念 山梨県高等学校芸術文化祭グランドステージを契機に、全専門部の連携とアピールをおとして、今後も文化芸術活動が継続して生徒の創造活動の源となるよう一体感を醸成していく。		
見直しの余地	判定	<input type="checkbox"/> 見直す余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある程度ある	<input type="checkbox"/> 見直す余地がない
	説明	<input type="checkbox"/> 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある <input type="checkbox"/> サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト削減を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> その他 (系統的な業務の進め方や手続き(業務プロセス)を行う余地がある)		
その他	説明			
見直しの必要性	有	高校生の文化芸術活動を充実させていくことが求められるため、生徒数が減少していく中で、業務を持続可能なものとし、指導者の人材育成や地域との連携を進めていく必要がある。		

V 見直しの方向(令和2年度当初予算等での対応状況)

実施方法等の変更	説明	生徒数減少傾向が進んでいる中で、地域との連携や地域人材の活用の整備と充実が、持続可能な業務や活動のために重要な視点と考える。具体的には、令和元年度から2年度にかけて、高文連事務局や各専門部が各校文化部活動の地域イベントへの参加や地域人材の活用について情報収集をして整理し、高文連のホームページ等でそれらの実績を紹介するとともに、地域やNPO法人との新たな関係構築を図ることができるようにするなど、県としても高文連事務局とともに系統的な人材活用や広報活動等の工夫について検討していく。
----------	----	---

- ・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、IV見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。見直しがなければ「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。